

テーマ：縄文遺跡群（実践校）

空知管内 砂川市立砂川小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間と社会科の学習を関連させて、縄文時代の日本の暮らしにおける特色や出来事について多角的に調べるとともに、外部講師による講話を通して、現在の自分たちの生活との関わりについて探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①単元の目標

縄文時代の遺跡や出土品・年表などの資料を用いた調べ学習や、体験的な学習等を通して、縄文時代の日本の暮らしにおける特色や出来事、人物の関連とその意味について多角的に考え、自分たちの生活との関わりについて探究し、ふるさとの歴史や伝統を大切にしようとする態度を養う。

②取組の様子

(1) 課題の設定

社会科の学習や北海道教育委員会が作成した動画資料の活用を通して、縄文時代の特色や歴史、自分たちの生活との関わりなどについて、一人一人が探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

学芸員による講話や修学旅行、砂川市公民館郷土資料室の資料及び北海道教育委員会が作成した「縄文遺跡VRツアー」を活用した調べ学習を通して、縄文時代の歴史や文化についての情報を収集しました。

(3) 整理・分析

1人1台端末を用いて、収集した情報を整理するとともに、縄文時代の文化や特色、自分たちの生活との関わりや外部講師による講話を通して学んだことや考えたことについて共有・交流しました。

(4) まとめ・表現

1人1台端末を用いて、学習内容を表現するために最適なツールを自己選択し、まとめを作成・交流することを通して、考えを深めることができました。



【学芸員による講話の様子】



【縄文式土器に触れる様子】

③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・課題の解決に向けた学習過程の見通しをもつことができるよう、北海道教育委員会が作成した動画資料や砂川市公民館郷土資料室の資料を活用し、一人一人が課題を明確にする場面を位置付けました。
- ・児童相互の学びが深まるよう、1人1台端末を用いてスライドでまとめを作成し、感想や学習成果物について交流しました。

■実践の振り返り

- ・学芸員による講話を設定したり、課題を明確にして探究的に学習を進めたりしたことにより、アンケートにおいて「縄文遺跡群についてもっと調べたい」と回答した児童の割合が54%から83%に増加するなど、児童の郷土を愛する心情や態度を育むことができました。
- ・教科等横断的な視点で各教科と総合的な学習の時間の学習内容を関連付けるなど、カリキュラム・マネジメントの充実を図ることにより、ふるさとへの愛着や誇りを一層育むことが期待できます。